

B型肝炎ワクチン 定期接種（母子感染予防以外）

2016年10月1日から定期接種がはじまります。

2016年4月1日以降に出生したお子さんを対象としています。

【B型肝炎について】

B型肝炎ウイルスは、人の肝臓に感染し一過性の感染や持続感染を起こします。

感染は、肝炎ウイルス（HBs抗原）陽性の母から児が生まれる際に主に産道で母体の血液に触れておこる「垂直感染」と、母親以外の家族や集団生活の中での濃厚な接触、血液で汚染された器具の不適切な使用、性的接触などで感染する「水平感染」があります。垂直感染については母子感染予防（母体の血液検査や児へのワクチンや免疫グロブリンの投与）によりほとんどが阻止されていますが、水平感染への対策が問題となっています。

B型肝炎では急性肝炎となって回復する場合もあれば、慢性肝炎の経過となることもあり、劇症肝炎となって激しい症状から死に至ることもあります。また、明らかな症状のないままウイルスが肝臓に潜伏し年月を経て慢性肝炎、肝硬変、肝臓癌になることがあります。年齢が小さいほどこのような持続感染のかたちをとりやすい（キャリアになりやすい）ことが知られています。

【B型肝炎ワクチンについて】

組み換えDNA技術を応用してつくられた、不活化ワクチンです。

小児では持続感染を防ぎ慢性肝炎、肝硬変、肝臓癌の発生を予防することがワクチンの最大の目的です。

最も感染リスクが高いのは母子感染ですが、他の家族からや集団生活の中で感染する可能性も考慮し、なるべく早く抗体をつけることがすすめられます。

3回接種して抗体が獲得できる率は年齢が若いほど高く、効果は30年以上持続します。

現在国内では用いたウイルスの遺伝子型の異なる2種類のB型肝炎ワクチン（ビームゲンとヘプタバックス）が流通していますが、互換性があります。

副反応は接種部位の腫れ、痛み、発赤等が主で、発熱はほとんどありません。

※ヘプタバックスのバイアルのゴム栓にはラテックスが含まれていますのでアレルギーのある方には注意が必要です。

【接種方法】 1回量 0.25ml を皮下に接種します。

【定期接種できる期間】 出生後～1歳になる前日まで。

【スケジュール】 計3回接種します。

2回目：1回目から27日以上あけて（4週後以降に）接種。

3回目：1回目から139日以上あけて（20週後以降に）

かつ2回目から6日以上あけて（1週後以降に）接種。

標準的には生後2カ月～8カ月までに接種します。

感染リスクが高い場合には出生直後からの開始も可能です。

（予診票は保健所から取り寄せてください。）

【接種費用】 無料（23区内の予防接種予診票を持参し、記載された有効期限内であれば公費負担）

ただし23区内の予診票を持参しないで接種 対象年齢を超えての接種

指定医療機関以外での接種 規定の回数を超えての接種 は有料

【持参するもの】 予防接種予診票（体温以外の項目をあらかじめ記入しておいてください。）

母子健康手帳